

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 2 日 (2006.3.2)

【公表番号】特表 2006-502080 (P2006-502080A)

【公表日】平成 18 年 1 月 19 日 (2006.1.19)

【年通号数】公開・登録公報 2006-003

【出願番号】特願 2003-546932 (P2003-546932)

【国際特許分類】

**A 6 1 K 45/06 (2006.01)**

**A 6 1 K 9/127 (2006.01)**

**A 6 1 K 31/7088 (2006.01)**

**A 6 1 K 39/00 (2006.01)**

**A 6 1 K 39/395 (2006.01)**

**A 6 1 P 35/00 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 K 45/06

A 6 1 K 9/127

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 39/00 Z

A 6 1 K 39/395 T

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 11 月 18 日 (2005.11.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

癌を処置するための薬学的組成物であって、該薬学的組成物は、有効量の T L R アゴニストと組み合わせて、有効量の腫瘍由来樹状細胞 ( D C ) 阻害因子アンタゴニストを含む、薬学的組成物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の薬学的組成物であって、前記腫瘍由来 D C 阻害因子アンタゴニストが、I L - 6 アンタゴニスト、V E G F アンタゴニスト、C T L A - 4 アンタゴニスト、O X - 4 0 アンタゴニスト、T G F - B アンタゴニスト、プロスタグランジンアンタゴニスト、ガングリオシドアンタゴニスト、M - C S F アンタゴニスト、および I L - 1 0 アンタゴニストからなる群より選択される、薬学的組成物。

【請求項 3】

前記腫瘍由来 D C 阻害因子アンタゴニストが、I L - 1 0 アンタゴニストである、請求項 2 に記載の薬学的組成物。

【請求項 4】

前記 I L - 1 0 アンタゴニストが、I L - 1 0 のアンタゴニストおよび I L - 1 0 レセプターのアンタゴニストからなる群より選択される、請求項 3 に記載の薬学的組成物。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の薬学的組成物であって、前記 I L - 1 0 アンタゴニストが、以下：

a ) 組換え体；

- b) 天然のリガンド；
- c) 低分子；
- d) 抗体または抗体フラグメント；
- e) アンチセンスヌクレオチド配列；あるいは
- f) 可溶性 I L - 1 0 レセプター分子、

である、薬学的組成物。

【請求項 6】

前記抗体が、モノクローナル抗体である、請求項 5 に記載の薬学的組成物。

【請求項 7】

前記抗体が、抗 I L - 1 0 R モノクローナル抗体である、請求項 6 に記載の薬学的組成物。

【請求項 8】

前記 T L R アゴニストが、以下：

- a) 組換え体；
- b) 天然のリガンド；
- a) 免疫刺激性ヌクレオチド配列；
- b) 低分子；
- c) 精製された細菌抽出物；
- d) 不活性化された細菌調製物、

である、請求項 1 に記載の薬学的組成物。

【請求項 9】

前記 T L R アゴニストが、T L R - 9 のアゴニストである、請求項 1 に記載の薬学的組成物。

【請求項 10】

前記 T L R アゴニストが、免疫刺激性ヌクレオチド配列である、請求項 9 に記載の薬学的組成物。

【請求項 11】

前記免疫刺激性ヌクレオチド配列が、C p G モチーフを含む、請求項 10 に記載の薬学的組成物。

【請求項 12】

前記免疫刺激性ヌクレオチドが、C p G 2 0 0 6 (配列番号 1)、C p G 2 2 1 6 (配列番号 2)、A A C - 3 0 (配列番号 3)、および G A C - 3 0 (配列番号 4) からなる群より選択される、請求項 11 に記載の薬学的組成物。

【請求項 13】

前記免疫刺激性ヌクレオチド配列が、ホスホロチオネート - 改変のような構造改変によって安定化される、請求項 10 に記載の薬学的組成物。

【請求項 14】

前記免疫刺激性ヌクレオチド配列が、カチオン性リポソームにカプセル化される、請求項 10 に記載の薬学的組成物。

【請求項 15】

前記腫瘍由来 D C 阻害因子アンタゴニストが、抗 I L - 1 0 R モノクローナル抗体であり、そして前記 T L R アゴニストが C p G 2 0 0 6 (配列番号 1) である、請求項 1 に記載の薬学的組成物。

【請求項 16】

請求項 1 に記載の薬学的組成物であって、該薬学的組成物が、前記腫瘍由来 D C 阻害因子アンタゴニストおよび / または T L R アゴニストを送達部位に持続放出させる、投与のために処方された物質をさらに含む、薬学的組成物。

【請求項 17】

前記腫瘍由来 D C 阻害因子アンタゴニストおよび / または T L R アゴニストが、静脈内投与、腫瘍内投与、皮内投与、筋肉内投与、皮下投与または局所投与されるために処方され

る、請求項 1 に記載の薬学的組成物。

【請求項 18】

少なくとも 1 つの腫瘍関連抗原をさらに含む、請求項 1 に記載の薬学的組成物。

【請求項 19】

前記腫瘍関連抗原が、TLR アゴニストに連結する、請求項 18 に記載の薬学的組成物。

【請求項 20】

請求項 18 に記載の薬学的組成物であって、前記腫瘍関連抗原が、以下：Melan-A、チロシナーゼ、p97、-HCG、GalNAc、MAGE-1、MAGE-2、MAGE-3、MAGE-4、MAGE-12、MART-1、MUC1、MUC2、MUC3、MUC4、MUC18、CEA、DDC、黒色腫抗原 gp75、HKer 8、高分子量黒色腫抗原、K19、Tyr1 および Tyr2、pMel 17 遺伝子ファミリーのメンバー、c-Met、PSA、PSM、-フェトプロテイン、甲状腺ペルオキシダーゼ、gp100、NY-ESO-1、p53 ならびにテロメラゼからなる群より選択される、薬学的組成物。

【請求項 21】

請求項 1 に記載の薬学的組成物であって、前記処置される癌が、以下：黒色腫、乳癌、膵臓癌、結腸癌、肺癌、神経膠腫、肝細胞癌、子宮内皮癌、胃癌、腸癌、腎臓癌、前立腺癌、甲状腺癌、卵巣癌、精巣癌、肝臓癌、頭部および頸部の癌、結腸直腸癌、食道癌、胃癌、眼の癌、膀胱癌、神経膠芽腫、ならびに転移性の癌腫からなる群より選択される、薬学的組成物。

【請求項 22】

活性剤をさらに含む、請求項 1 に記載の薬学的組成物。

【請求項 23】

前記活性剤が、IFN、TNF、RANK リガンド / アゴニスト、CD40 リガンド / アゴニストまたは TNF / CD40 レセプターファミリーの別のメンバーのリガンド / アゴニストからなる群より選択される、請求項 22 に記載の薬学的組成物。

【請求項 24】

血液樹状細胞の数を増加させるサイトカインをさらに含む、請求項 1 に記載の薬学的組成物。

【請求項 25】

前記樹状細胞増殖因子が、FLT3-L、GM-CSF および G-CSF からなる群より選択される、請求項 24 に記載の薬学的組成物。

【請求項 26】

前記腫瘍に送達するために処方される、樹状細胞上で活性なケモカインをさらに含む、請求項 1 に記載の薬学的組成物。

【請求項 27】

請求項 26 に記載の薬学的組成物であって、前記ケモカインが、以下：CCL21、CCL3、CCL20、CCL16、CCL5、CCL25、CXCL12、CCL7、CCL8、CCL2、CCL13、CXCL9、CXCL10 および CXCL11 からなる群より選択される、薬学的組成物。

【請求項 28】

前記ケモカインが、ケモカインまたはその生物学的に活性なフラグメントもしくはその改変体および標的化部分を含む標的化構築物を用いて前記腫瘍に送達されるために処方される、請求項 26 に記載の薬学的組成物。

【請求項 29】

請求項 28 に記載の薬学的組成物であって、前記標的化部分が、以下：

- a) 少なくとも 10 個のアミノ酸のペプチド；
- b) タンパク質；
- c) 低分子；
- d) ベクター；および

e) 抗体またはそのフラグメント、  
からなる群より選択される、薬学的組成物。

【請求項 30】

前記腫瘍由来 DC 阻害因子アンタゴニストおよび / または TLR アゴニストが、互いに連結する、請求項 1 に記載の 薬学的組成物。

【請求項 31】

前記腫瘍由来 DC 阻害因子アンタゴニストおよび / または TLR アゴニストが、腫瘍関連抗原にさらに連結される、請求項 30 に記載の 薬学的組成物。